

令和8年度 第2回

一関市立赤荻小学校 学校運営支援協議会

期 日 令和8年10月17日（土）

時 間 学習発表会後 ～12：25

場 所 校長室

【 次 第 】

進行：副校長

記録：地域 Co

1 開会のことば

2 校長挨拶

3 報 告

（1）令和8年度赤荻小学校学校経営の進捗状況について

① 学校経営の状況

② 1学期末学校経営自己評価（職員）

③ 1学期末まなびフェスト自己評価（児童）

4 協 議

（1）地域との連携について

（2）地域ボランティア活動推進について

（3）その他

5 閉会のことば

【 第3回：2月予定 】

学校運営支援協議会委員

(敬称略)

本協議会役職	ご 芳 名	役 職
会 長	小 岩 郁 郎	学童クラブ運営委員長 スクールガード会長
副会長	菊 地 幸 輝	元学校評議員
委 員	阿 部 邦 弘	元学校評議員
委 員	鈴 木 美樹子	元学校評議員
委 員	金 野 孝 徳	スクールガード副会長
委 員	菊 地 和 哉	学習交流館館長
委 員	浅 野 裕 美	主任民生児童委員
委 員	阿 部 浩 紀	P T A会長
委 員	亀 谷 琢	校 長
委 員	渡 邊 隆 子	副校長
委 員	菊 池 淑	赤荻 地域コーディネーター

令和8年度の学校経営及び児童の状況

R8.10.17 亀谷

1 学校行事等(2学期これまで)

校外学習はじめ、他校交流、外部講師の活用等充実した教育活動の実施ができています。

○校外学習

6年修学旅行(松島・仙台)、5年宿泊学習(健康の森)・トヨタ自動車工場見学

4年照井堰見学、体験学習、3年地区内商業店舗、工場見学、2年地区内商業店舗見学、
1年遊水地見学

○地区内教育施設との交流活動

赤荻幼稚園・たんぽぽ保育園・赤荻保育園園児、清明支援学校交流籍児童と交流

○外部講師等招聘授業

食育授業(全学年)、5年稲刈り、6年アスリート派遣授業、磐井中合唱部合唱披露会

今後…4・6年高専の出前授業、5年自動車工場オンライン見学、6年世界遺産出前授業、

○校外行事

6月24日(水)一関地方陸上記録会 入賞児童多数、大いに活躍した。

○今後の予定

11月5日(木) 一関地方小学校音楽会(4年生出演)

11月10日(火) 校内マラソン大会 ※下水道工事に伴う走路の変更(昨年度より)

12月23日(火) 2学期終業式 1月13日(水) 3学期始業式

3月19日(金) 卒業式

2 児童の状況

○タブレットを活用した学習、グループでの対話などを通して、互いに高め合う姿が見られる。

○生活に潤いをもたらすことをねらいとした会社活動などを通して、児童が主体的に活動を進めるようになってきている。

○縦割り班活動や清掃、雨の日の会社活動において、上級生が下級生を優しくサポートする姿が多く見られ、思いやりの心が育っている。

○登下校の見守りや地域行事など、委員の皆様や地域の方々に温かく見守っていただいているおかげで、児童も安心して学校生活を送ることができている。

○9月中旬に2年生がインフルエンザによる学年閉鎖をした。その後、各種感染症や熱中症による体調不良はほとんど見られず、通常の行事や活動を予定通り進めることができています。

＜調査正答率＞ 全国比 国語 算数

国語：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力

＜質問紙調査＞

反面、平日家庭で1時間以上勉強していると答えた

○不登校・問題行動

担任を中心に、複数の教師や支援員等組織で連携し対応している。

○問題行動

・学習交流館の利用の仕方、地域の私有地、用水路でのイタズラ、公園のごみの不始末

軽微な事案であっても、いじめ対策委員会を開き、対応等を検討し、組織対応している。

いじめ認知

○灯油配管、灯油地下タンクの不具合：修理完了

○2階トイレ増設:利用開始

○電話応対機器が設置:勤務時間外(18時～翌朝7時30分)自動音声応答実施

○玄関前たたきタイル修繕

○校庭フェンスのほつれ、破損修繕

○バックネット下部ワイヤー断裂 簡易修繕

●体育館傍電源ケーブルマンホールに地下水流入、溜まっている。

●保健室前校庭降り口のブロックの崩れ、水たまりの発生

●プール小屋前の U 字溝の劣化

●玄関ガラスの割れ

一関市立赤荻小学校

1学期 教育活動の振り返りと評価

子供の育ちを中心とした現状分析と今後の展望

学校経営・運営の重点 振り返り報

経営・運営の基本方針の振り返り

1. 児童主体の活動展開

児童が気づき、考え、やってみようとする活動（会社活動・ボランティア等）を教職員が全力で支援し、児童の自己有用感の育成に成果が見られました。

2. 見通しをもった教育活動の展開

日常活動から行事・イベントへのつながりを意識し、計画的な指導を展開。基本的生活習慣の定着や挨拶の日常化に向けた指導を継続しています。

3. 地域教育資源の活用

学習支援や見守りボランティア等の協力を得て、地域に開かれた持続可能な教育環境づくりを推進することができました

主要領域・設問別 肯定的評価の割合

学級・学年経



領域平均

Q1.主体活動	90%
Q2.有用感	86%
Q3.生活習慣	88%

授業・学力向



領域平均

Q4.基礎学力	82%
Q5.深い学び	65%
Q6.ICT活用	78%

家庭・地域連



領域平均

Q7.人材活用	96%
Q8.情報発信	90%
Q9.保護者連携	90%

業務・体制整



領域平均

Q10.時程見直し	88%
Q11.校務効率	82%
Q12.支援体制	76%

子供の育ち① 取組の実際と現状（成果）

主体性の育成 と 自己有用感

【取組の実際】 会社活動や「ちょボラ」など児童主体の活動を教職員が積極的に奨励・支援。

【現状の育ち】 自ら考え、工夫して行動する児童が増加。役割を果たすことで学校への所属感や「役に立っている」という自己有用感が高まっている。

基礎学力と 学習習慣

【取組の実際】 100マス作文・計算の反復学習や、朝の読書活動を全校体制で継続実施。

【現状の育ち】 読書目標の達成率が高く、落ち着いて学習に向かう姿勢が定着。基礎的な記述力や計算力において確かな伸びが見られる。

規範意識と 安全・生活習慣

【取組の実際】 日常的な挨拶運動の推進と、実践的な避難訓練の定期実施。

【現状の育ち】 挨拶が日常化し、基本的生活習慣が身につきつつある。有事の際にも自ら状況を判断し、安全に行動できる意識が育っている

子供の育ち② 現状の課題と分析

1. 深い学びへの発展不足

【現状】

児童同士の対話を通じた学びの深まり（特に道徳等において）が不十分。

【分析】

活動自体は活発だが、自分の考えを他者と共有し、多様な意見から自らの思考を更新・拡張していくための教員の発問や授業デザインに課題がある。

2. 学力の二極化傾向

【現状】

基礎的な反復には意欲的だが、特に算数等の論理的思考を要する場面で、児童間の理解度・学力差が大きい。

【分析】

全体向けの一斉指導だけでは、つまづきを抱える児童をカバーしきれていない。個人の定着度に応じた個別最適なアプローチや反復学習の質的転換が必要。

3. 対人関係とメディ

【現状】

一部の児童でネット上（SNS・ゲーム等）のトラブルや、就寝時間の遅れによる日中の集中力低下が見られる。

【分析】

家庭でのメディア利用時間増加が人間関係や生活リズムに直接影響を及ぼしている。学校内での指導に加え、家庭との連携が不可欠である。

子供の育ちを支える基盤（学校組織・業務）

+ 運営面での成果

- **地域教育資源の活用：**ミシンや家庭科などの学習ボランティアの協力が活発化し、児童へのきめ細かな支援・見守り体制が実現。
- **業務改善の進展：**「月曜4時間」や「木曜掃除なし」等の時程見直しにより、教員が放課後に教材研究や児童と向き合うための時間を確保。
- **ICT活用による効率化：**AIを用いたアンケート集計や、ロイロノートの活用が教員間でも日常化しつつある。

- 組織・体制面の課題

- **高学年担任の負担：**専科教員（理科等）の不在により、高学年を中心に空き時間が少なく、授業準備や児童への対応負担が依然として大きい。
- **校務分掌の偏り：**業務削減を進めているものの、担当者による業務量の偏りが生じており、責任範囲のさらなる明確化が必要。
- **特別支援の組織的対応：**配慮を要する児童に対し、担任が一人で抱え込まず、チームとして迅速かつ継続的に支援する体制の強化が求められる

子供の育ち③ 2学期以降の重点的な取組

1

「深い学び」を導く授業改善と学力保障

児童の思考を広げ、対話を生む発問の工夫について教員間で実践・共有する。また、算数等においてICTを活用した個別最適な学びや習熟度別の工夫を取り入れ、学力の二極化解消を図る。

2

児童理解の深化と組織的な生徒指導体制

特別な配慮を要する児童に対し、特別支援チームや関係機関との情報共有を密にし、合理的な配慮と一貫した支援を組織的に行う体制を強化する。

3

規範意識の育成に向けた家庭・地域との連携

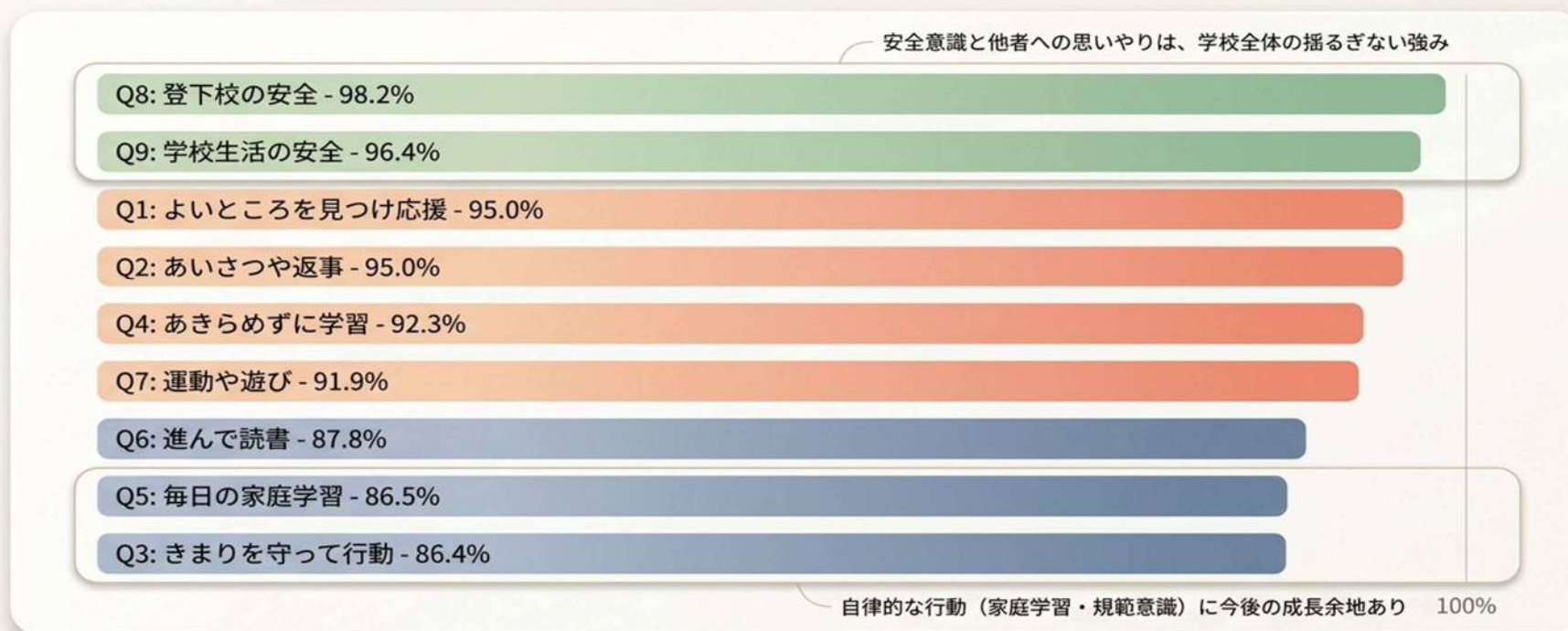
情報モラル教育を計画的に実施するとともに、睡眠時間やメディアコントロールなど基本的生活習慣の確立に向けて、保護者へ向けた啓発を積極的に推進する

まとめ

**1学期の取組を通じて、
児童の「主体性」という確かな芽が
育ちつつあります。**

今後はこの芽をさらに伸ばすため、
「質の高い学びへの転換」と
「家庭・地域と連携した生活基盤の確立」を
両輪として進めてまいります

全体の肯定的評価の結果



NotebookLM

全体の傾向

- ◎「安全意識」と「思いやり」に関する自己評価が非常に高い
- 「規律・公德心」や「自律的な学習習慣」が低い

分析



「自分の身を守ること」や「体を動かすこと」には自信をもっているが、「内面的な規律（きまりを守る）」や「知的な習慣（読書・家庭学習）」については、成長とともに自己評価が厳しくなり、差が開いていく傾向にある。

特に Q3（きまりを守る）の低さは、全学年共通の課題として、学校全体で意識的に取り組む価値がある指標といえる

テーマ1：心と社会性

Q1 自他の承認



温かい人間関係の基盤

Q2 あいさつ



活気ある学校の証

Q3 きまりを守る

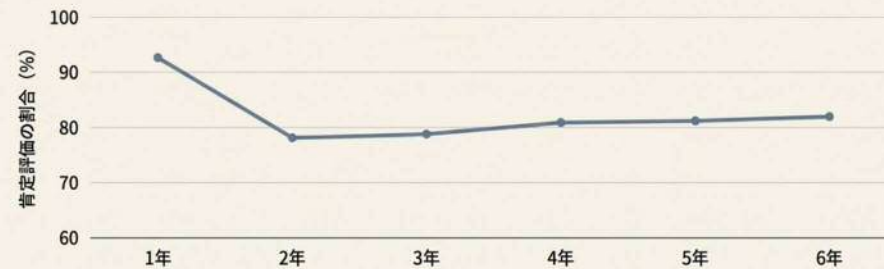


「あまりできなかった」が
やや目立つ

思いやりやコミュニケーションの力は十分に育まれています。一方で、「きまりを守る」という自己統制の項目では、発達段階に応じた揺らぎが見られます。次ページでその内訳を見てみましょう。

© NotebookLM

深掘り1：学年別に見る「規範意識」の変化



なぜ中学年で「きまり」への自己評価が下がるのか？

これは必ずしも「ルールを破るようになった」わけではありません。「先生に言われたから守る」という低学年の他律的な段階から、「自分で考えて行動する」という自律的な段階への移行期において、子どもたちが自身が自分の行動をより厳しく、客観的に自己評価できるようになった「成長の証」とも捉えられます。

テーマ2：学習に向かう力



「わかるまで頑張りたい」という強い学習意欲 (Q4) は持っています。
しかし、それを「毎日の家庭学習 (学年×10分以上)」という行動習慣 (Q5) へ
落とし込むところで、壁にぶつかっている児童が少なくありません。

© NotebookLM

The Growth Compass テーマ3：健康・安全・生活



子どもたちの自己肯定感や学習習慣の基盤には、この『圧倒的な安心・安全』が存在しています。
保護者や地域の方々の見守り、そして日々の安全指導が確実に子どもたちに浸透している結果です。

© NotebookLM